

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

市長あいさつ

永井会長あいさつ・活動状況報告

意見交換

- (1)災害にかかわる道路・河川の整備・改修について
- (2)嵐山の展望台からの眺望を阻害している樹木の剪定について
- (3)支所地域まちづくり推進事業補助金の交付対象について
- (4)市営住宅、福祉施設の建設による居住促進、過疎化対策について
- (5)避難所における災害用物資の備蓄について
- (6)農業振興施策と農業後継者のための住宅建設について
- (7)郊外の地域住民や農業者などの声を聴く機会を設けることについて
- (8)支所地域まちづくり推進協議会の今後について
- (9)江丹別地区、嵐山地区間のバス路線の新設について
- (10)市民委員会活動について
- (11)江丹別地域のまちづくりについて
- (12)中心市街地の活性化について

市長終わりのあいさつ

第58回目となる今回は、各支所所管区域内の地域住民等が、地域の課題を共有し、その解決に向けた方策を検討し、地域特性を活かした個性あるまちづくりを推進するため、平成22年度に各支所に設置された「まちづくり推進協議会」のうち、「江丹別まちづくり推進協議会」（永井会長の委員の皆さんと、これまでの活動状況や今後の課題、市への提言などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成23年10月13日(木) 午後3時00分～午後4時10分
場所	旭川市江丹別公民館 講座室 (旭川市江丹別町中央)
相手団体	江丹別まちづくり推進協議会(永井義明会長)の委員 10人 (当日の出席者7人)
出席者	旭川市長 西川将人 「江丹別まちづくり推進協議会」(五十音順 敬称略) 荒川恵美子 河原晴彦 北井ひとみ 品川功 永井義明(会長) 能登公生 橋本祐一(副会長)

対話の内容

市長あいさつ

いつもお世話になっております。

今日は「江丹別のまちづくり推進協議会」の皆さんとこのように意見交換をさせていただくことになりました。皆さん大変お忙しい方々ばかりでありますがお時間を取っていただきまして本当にありがとうございます。

また日頃から江丹別、嵐山地域の発展・振興、住民の皆様が安心して暮らせる地域づくりに様々な角度からお力添えをいただいておりますことにつきましても、この場をお借りして感謝御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

この対話集会は、私が市長に就任後、これまで定期的に市内各団体の皆さんや地域の皆さんを対象に行っており、今日で58回目の開催となります。また今年度からは、青少年との対話ということで、市内の中学生を対象に各学校を訪れて対話集会を開催させていただいております。これまでの対話集会の中でいろいろな貴重なご意見をいただいておりますが、いただいたご意見を少しでも早く、そして少しでもたくさん市政に反映することができるように取り組んでまいりました。今日の対話集会でも、地域の様々な課題等を聞かせていただきたいと思います。

昨年はこちらの地域で短期間に2件も火事があり、亡くなられた方がいらっしゃいました。私どもとしても、こちらの地域が少し離れているということから、火災が起きた時の対応について、日頃から気を付けているところでありますが、こちらの協議会で住宅用の火災警報器を21戸に無償貸与していただくという取組を行っていただき、本当に感謝を申し上げたいと思っております。



また、今年は3月に東日本大震災がありました。日頃から地域の皆さんが防災についての意見交換をして、万が一に備えるということが大事だと改めて実感いたしました。そこで各まちづくり推進協議会の中に、ぜひ消防団の皆さんにも委員となっていただきたいと考え、年度途中からではありませんが、この協議会に参加いただいたところです。ぜひ日頃からいろいろと意見交換をしていただきたいと思っております。

またいろいろと地域の課題があります。私もこれまでの対話集会などを通じてお話を聞かせていただいておりますが、また貴重なお話を聞かせてもらえればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。簡単ですが冒頭に当たってのあいさつに代えさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

永井会長あいさつ・活動状況報告

皆さんこんにちは。

西川市長におかれましては、江丹別地区市民委員会並びに嵐山地区市民委員会に対して格段のご理解とご協力をいただき、地域振興並びに活動等につきまして、温かいお力添えをいただいていることにまずお礼を申し上げます。

それでは、江丹別まちづくり推進協議会を代表いたしまして、ごあいさつと活動状況の報告をさせていただきます。

西川市長におかれましては、職務多忙な中、まちづくり対話集会を開催され、本日で58回目とたくさんの市民や数多くの団体とお会いになり、様々な意見を聞いて市政に反映されていることについて心から敬意を表したいと思います。そして今年度は各支所地域のまちづくり推進協議会との対話集会を持ち、本日、この江丹別が第4回目ということで、このように市長とお話しできる機会を設けていただきましたことに、協議会委員全員が感謝を申し上げます。

それでは昨年度の活動状況について、市長のお話と重なるところもあるかもしれませんが、改めてご報告いたします。

昨年度は市民委員会、地区社会福祉協議会、民生児童委員協議会、PTA、農業団体、御長寿団体などの様々な地域の団体から推薦を受けた9人の委員による「江丹別まちづくり推進協議会」が発足し、活発な審議を重ねてまいりました。その結果、少子高齢化や青少年の健全育成、住みよいまちづくりのための環境などの整備、そして安心・安全についての対策が必要であるという課題が話し合われました。その中でも特に、安心・安全対策として、住宅用火災警報器の無償貸与という補助金事業が実施されました。これは江丹別地域で昨年、平成22年初めに相次いで起きました住宅火災で、4人のお年寄りが犠牲になったことを機に出された課題であります。1月、2月に発生した2戸の住宅火災は、昼下がりであったのですが、私もいち早く駆けつけて、市の消防や鑑識の方などに聞くと、二呼吸ぐらい熱風を吸うと意識がもうろうとして、長年住み慣れた我が家の出口も全然分からなくなるそうです。

江丹別地区が遠隔地であることその他の状況から、地域住民に対しての被害を最小限に抑え、安心して安全なまちづくり推進していくために、特に老人世帯等を対象とした住宅用火災警報器の無償貸与を行うことが良いとの判断に至り、市民委員会や各町内会長の皆さんにもご協力をお願いいたしました。

引き続き今年度の活動状況についてお話しいたします。今年度は昨年同様に地域の団体から推薦を受けた委員に加え、地域の消防団長が追加で選任され、10人の委員で協議を進めております。今年度の提言については、昨年度から候補に挙がっておりました公民館フェスティバルでのコンサートのグレードアップとするよう進めております。公民館フェスティバルというのは、毎年2月に公民館の活動団体連絡協議会が主催しているイベントで、以前は地域文化祭という名称で実施されてきました。地域の人たち、地域の団体の人たちの協力を得ながら開催し、各活動団体の学習成果の発表の場だけではなく、地域住民の交流・親睦の場として親しまれ、よさこいソーランやハンドベルなどいろいろな団体の皆さんが盛り上げてくれています。



今日は、市長がお忙しい中、直々に江丹別まちづくり推進協議会との対話集会ということで来られているのですが、こちらの地域は今大変な時を迎えています。10月7日に副市長がこちらに来られた際には、地域の要望書を提出させていただき、5項目の地域要望に対して、副市長をはじめ環境部などの職員の皆さんから約2時間の中で回答をいただきました。副市長が言われる財政難ということも理解できますし、市内には64もの市民委員会もあり、人口も35万人もいるわけですから、なかなか難しいということはわかっているのですが、現在の少子高齢化の中、江丹別・嵐山地区も含めて地域では過疎対策を求めているのです。これは早急に何とかしなければならない地域の大きな課題です。副市長にも申し上げましたが、ここに若者が住むことができる勤労者住宅を建ててほしいと考えています。今、地域の酪農家の息子さんが5人くらいいるのですが、父親が高齢になり、息子さんが帰っ

て来ると、その家では息子さんがお嫁さんをもらって、子どもができるとうしても狭くなります。そういうような状況も考えてご協力をお願いしたいと思っています。農村公園も市営住宅の跡地もありますので、1年に5戸程度建てていただけるよう早急をお願いしたいと思っています。

もう一つは、この協議会の中でも出ている話なのですが、福祉施設の建設をお願いしたいと考えています。高齢化の中、この地域でも65歳以上の高齢者が40%を超えていると思います。長年ここで生まれ育った方々が入ることができるような福祉施設があれば、冬に屋根の雪おろしもしなくともいいですし、皆が一同に集まって昔話などいろいろな話をして交流できますし、そのような楽しく住むことができる福祉施設を建てていただきたいと思っています。これらについては本当に強く市長をお願いしておきます。

江丹別まちづくり推進協議会の委員の皆さま方におかれましては、今日は3人欠席していますが、7人の方に参加していただき大変ありがとうございます。

最後になりますが、西川市長にもう一度強くお願いいたしまして、私のあいさつに代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

～意見交換～

参加者から寄せられた意見と、市長のコメントについてまとめたものを掲載します。(以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます)

市長

永井会長にはいつもお世話になっております。また今日、改めていろいろなお話しを聞かせていただいてありがとうございます。

先日の副市長との協議の中でご提案をいただいた勤労者住宅や福祉施設については、現状の考え方などについて回答させていただいておりますが、私も今後、中長期的な視野でいろいろな可能性について担当部局と話し合いをしていきたいと思っています。

財政難ということももちろんありますが、それとは別にこの地域の振興という部分から検討していなければならぬこともあります。今日はそこまでしか申し上げられませんが、改めて再認識させていただきたいと思っています。

今日は皆さんそれぞれの立場からいろいろなご意見などをいただきたいと思しますのでよろしく願いいたします。

(1)災害にかかわる道路・河川の整備・改修について

橋本

今年の豪雨の時には、江丹別は道路が冠水して陸の孤島となり、ニュースで全国放送もされました。そこで道路の冠水した箇所を少しかさ上げしていただきたいと思っています。大雨の時には毎回2か所ほど冠水する所がありますので、ぜひお願いします。

能登

私は消防団として出席させていただいております。

今回の豪雨で道路が2か所ほど冠水したのですが、普段から低いと思っていた箇所で、私たちも大雨が降るたびに見回りをして警戒していました。その部分をか

さ上げするなり、堤防を改修することで改善できると思いますので、早急にお願いしたいと思います。このままでは大雨が降るたびにたいへんなことになってしまいます。

市長

道路や堤防の改修は、まずどのような方法がいいのかなど土木部と検討したいと思います。

北井

道路や河川を改修していただくこともいいのですが、万が一冠水した時のために迂回路となる道路の整備が必要だと思います。今年の豪雨の時には江丹別ダムの方から山を越えて帰ってきましたが、その道もひどい状態でした。

(2)嵐山の展望台からの眺望を阻害している樹木の剪定について

橋本

嵐山公園の展望台は旭川が一望できるとても良い所です。しかし、周辺の木がだんだんと大きくなり、眺望を阻害しています。先日、百寿大学のカメラの講座があり、展望台まで行って写真を撮ったのですが、やはり木が邪魔をしていい所が撮れませんでした。周辺の大きくなった木を切ってもらえないでしょうか。できなければ2階建ての展望台をもう一階増やして高くするなど、せっかくのきれいな旭川を一望できる所ですから、何か考えていただきたいと思います。

市長

昨年、私がそこに行った時には一望できたような気がしますが、それから木が伸びたのですね。木の剪定はできると思いますので、土木部に話をしておきます。

(3)支所地域まちづくり推進事業補助金の交付対象について

橋本

江丹別公民館フェスティバルは来年の2月で5回目となり、優良公民館の表彰を機会にこのように発展しました。フェスティバルでは、わいわいコンサートといって、毎年、江丹別小中学校の先生のグループに演奏会を開催していただいています。今年は嵐山にある島田音楽院の院生の方に来ていただけるよう交渉し、11人ほど来ていただけることになりましたので、まちづくり推進協議会の補助事業として補助金をその方たちの出演料に使わせていただきたいと思っています。

市長

フェスティバルの方は公民館の事業ですが、協議会の補助金は使えるのでしょうか。

市民協働室長

今、協議会の皆さま方でいろいろと検討されていますが、その事業内容が公民館の事業と重なる部分がありますので、その調整をしながら、どのようにすれば補助金を支出することができるか話し合われており、実務的には大分進んでいる

ようです。

江丹別支所市民係長

今年の補助事業の内容としては、わいわいコンサートのグレードアップということで進んでおります。あとは実施団体を決めた後にそこで交渉していただくということになります。大体もう大まかな部分は進んでおりますので、今年のまちづくり推進協議会の補助事業ということになります。

市長

ぜひまたいろいろと話を進めていっていただきたいと思います。

(4)市営住宅、福祉施設の建設による居住促進、過疎化対策について 能登

市営住宅や福祉施設を建ててくださいという市民委員会の要望に対する市の回答は、はっきり言うと「無理」という内容です。若い方も年配の方の中にもこの自然環境が気に入って住みたいという人がいます。ですから住む場所があれば人は来ると思います。

市長

住宅等の建設については、今後も地域振興という面から検討していきたいと考えています。

北井

私も地域に住宅を建ててほしいと思っています。建てられる際には、地域住民の意見を聞いて住みやすい家を建ててほしいと思います。雪が多い地域ということもあり、現在建ってる家には悪い部分がたくさんあります。地域の方だとそういうことも分かりますので、ぜひ意見を取り入れて住宅を建ててほしいと思います。

(5)避難所における災害用物資の備蓄について 荒川

今年の9月の豪雨の時には道路が冠水し、江丹別峠も封鎖されたので、本当に陸の孤島となってしまいました。しかし避難先の学校には災害用の物資がなく、寝具も揃っておらず、保健室の布団ぐらいしかないという状況でした。もしまだ同じ状況であれば、今後備えて避難した人たちが不自由をすることないように、災害用物資の備蓄を早急に進めていただきたいと思います。

橋本

江丹別には2か所の避難所があります。今年の大雨の際に1世帯が避難しましたが、避難所には毛布や食料などの備蓄がありませんでした。避難所に指定されていながらそういう状況ではいけないので、早急に災害用の物資を備蓄すべきです。

(6)農業振興施策と農業後継者のための住宅建設について

荒川

江丹別は農村地域なので、農業後継者が育っていかなければこの地域は駄目だと思います。幸いにも私たちの世代の子どもにあたる人たちが何人か戻ってきています。しかし、親と同居して二世帯で暮らすことができるほどの広さの住宅がなく、ここで営農するためにはどうしたらいいのかと困っています。農業後継者は何よりも一番大切にしなければならないと思います。北海道は農業で成り立っていますし、まずその農業の基盤をしっかりとっていくことこそ北海道の力を付けることになります。特に旭川は水田もあり、畑作、酪農、果樹、畜産、養鶏など、収穫祭では調味料以外のものが全部揃う豊かなところですよ。その農村で成り立っている江丹別は過疎化が進んでいる中、せつかく農業をしようと戻ってきている若者たちがいるわけですから、市営住宅だけでなく、それとは別に農業後継者のための住宅があるととてもいいと思います。そして農業後継者が農業で安定した収入を得るためいろいろな施策にぜひ力を入れて取り組んでいただきたいと思っています。

北井

江丹別には珍しい野生動物がいます。オオワシが来ることもありますし、クマゲラもいます。このような自然を残しつつ、農業の発展のために農業後継者施策に力を入れて、人をたくさん呼び込んでほしいと思います。そのためにはやはり住宅が必要なのです。

私の友達もここに住みたいという方が何人もいましたが、やはり住める家がないということから断念してしまいました。

(7)郊外の地域住民や農業者などの声を聴く機会を設けることについて

荒川

私は、都市計画マスタープランや定住自立圏共生ビジョンの懇談会の委員などをしていますが、そういうところで話し合われるのは、まち中をどのようにしていこうかということです。定住自立圏共生ビジョンの懇談会では田舎に住んでるのは私だけで、あとは皆まち中の人たちです。周辺の農村に住んでる人たちの声は、まち中の人にはあまりにも漠然としたイメージしかないようです。例えば交通機関にしても、まち中から田舎につながっていますが、それは結局まちに出るためです。私は常々、田舎をなくしてまちづくりの話はできないと思っています。まちづくりの話をする際には、ぜひ田舎の声を吸い上げられるようにすべきだと思います。今日の日対話集会はすごくいい機会だと思います。私は以前「旭川農業2世紀塾」として市長との対話集会に出席させていただきました。その時は市長と農業者との意見交換だったのですが、そのように各地域の農業者の声を吸い上げる機会を設けて、そしてさらに市全体の農業、工業、商業、全てを網羅した中での住民との意見交換を行うことができればいいと思います。それらを全てつなぎ合わせるのは行政の仕事だと思います。そういうものができれば市民が一つになれるのかなという気持ちを持ってます。ぜひそのような機会を持っていただきたいと思っています。

(8)支所地域まちづくり推進協議会の今後について

荒川

昨年、このまちづくり推進協議会ができ、補助事業として火災警報器の無償貸与

を行い、今年もまた協議会が継続され、補助事業は公民館フェスティバルのコンサートについての話が出ていますが、この協議会は来年度以降はどうなるのでしょうか。西川市長が市長である間はこれが継続されるのでしょうか。来年も再来年も継続されるというのであれば、長期的な計画を持って取り組むことができますので、教えていただきたいと思います。

市長

私の任期中はこのまちづくり推進協議会をグレードアップなりバージョンアップしていきたいと思っており、やめてしまうことは考えてはいません。あまり効果が出ていないのではないかなど、そういう意見を言われることもあるかもしれませんが、そう言われないうちにきちんと効果を出せるように、しっかりと私も知恵を絞ってやっていかなければなと思っています。

どうしても市の予算は単年度で決めるものでありますので、年度ごとの予算案を議会に提出して可決していただいて執行するというかたちになりますが、私自身は今後も続けていきたいと思っております。

(9)江丹別地区、嵐山地区間のバス路線の新設について

橋本

昨年のまちづくり推進協議会での話合いの中で、江丹別と嵐山を結ぶバス路線を新設してもらえないかという話がありました。現在は旭川駅から春光台、北野を経由して江丹別に至る江丹別線が往復3、4便と、4条9丁目から忠和、嵐山小中学校、品川に至る品川線が往復4、5便ありますが、江丹別と嵐山を結ぶバス路線はありません。

両地区の市民委員会で連絡協議会を作ってはいますが、交通の関係でも江丹別と嵐山で一体性を持ちたいとも思いますし、自動車の免許証も返納しなければいけない年齢になってきていますので、現在の路線の増便と江丹別、嵐山を通ってまち中の方に行く路線の新設をお願いしたいと思います。

(10)市民委員会活動について

橋本

先日、新聞に「市民委員会の活動が見えにくい」と市行政評価委員会が市に報告したという記事が載っていましたが、各市民委員会も一生懸命やっています。

市民委員会の活動補助金の均等割分の額が下がったというお話も聞いていますが、こちらのような過疎地域の市民委員会は本当に大変です。市民委員会は市の事業への協力も一生懸命していますので、その点も少し考えていただきたいと思っています。

市長

市民委員会の皆さまにはいろいろな面でお世話になっておりますし、またそれぞれの地域で本当に一生懸命に活動されていることは私もよく分かっているところであります。

(11)江丹別地域のまちづくりについて

北井

江丹別をどのようなまちにしたいと市長は思っているのでしょうか。

市長

私も江丹別、嵐山の皆さんといろいろな機会でお会いしていますが、皆さんすごく熱心に地域活動をされていますし、地域のことを本当に真剣に考えていると感じています。市としても、まだまだ不十分かもしれませんが、できる範囲で地域の発展・振興のために、これまでもいろいろと取り組んできているところです。農業がこの地域の特色であり、また畜産もありますし、そば作りが盛んな地域です。また自然がたくさんあり、これらはこの地域の素晴らしい魅力だと思っています。

また、なかなか入居者がいないのですが優良田園住宅やログハウスの移住促進住宅を建設させてもらっております。これらをもっともっと有効活用していけたらとも思っています。江丹別、嵐山も本当に素晴らしい地域ですから、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

(12)中心市街地の活性化について

北井

旭川駅の周辺などの中心市街地はこれからどのようにしていきたいと考えているのでしょうか。昔はその辺りしか店がありませんでしたので、すごく賑わっていましたが、今は寂しい感じがします。これから中心市街地はどのように発展させていく考えなのか聞かせていただきたいと思います。

市長

中心部も以前に比べて寂しい状況になっていますので、活性化のための施策をいろいろと行っているところです。これからも引き続き行っていかなければいけないと思っています。

郊外に大きなスーパーができて、皆さんがそこに買い物に行くのはそれはそれでいいと思いますが、中心部はやはり旭川の顔です。今後も高齢化は進んでいくでしょうし、日本全体の人口が減少している中、旭川の人口も減っていくのだろうと思います。もちろん人口を減らさないための努力をしていきますし、やはり中心部にどれだけの都市機能を残していくかということが大変重要だと思っていますので、こちらも一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。

北井

中心部は既存のデパートがなくなっていますが、病院などいろいろな新しい施設が建ってきています。街中が好きな高齢者が集まって暮らせるようなまちにはできないのでしょうか。

市長

それはできると思います。今ちょうどそのような取組を行ってきています。高齢者向けの優良賃貸マンションなどもありますし、市役所本庁舎のすぐ向かい側にも介護付きの老人ホームができました。郊外の一軒家で暮らしていた人が家売って、中心部のマンションなどに移り住んできている人が増えてきています。

北井

街中には学生や子どもたちも集まりますので、子どもたちにとって何か魅力的なものがあればいいと思います。

市長

今、市中心部で市営住宅の建設工事に着手しています。宮下通の13・14丁目に3棟の市営住宅を建設する予定です。合わせて約150戸が入居できますが、そのうちの約半分に子育て世代の人たちに入居していただこうと考えています。それにより若い人たちが宮下通周辺に増えていくと思っています。

今回の議会では中学校の統廃合について、議員からもいろいろと厳しいご意見などをいただきましたが、中心部でも子どもの数がすごく減っていますので、中心部に市営住宅を建て、子育て世代の方々に入居していただくことで、若い方たちがまた戻ってくるのではないかと期待をしています。そのような取組も中心部では行っているところです。

市長終わりのあいさつ

まだまだ皆さんからいろいろなご意見があると思いますが、貴重なご意見をありがとうございました。

江丹別・嵐山地域がこれからどのようにして発展・振興していけるかという視点から、私も一生懸命頑張っていきたいと思っておりますし、住宅の建設などのお話については、こちらの地域の住民の皆さんとの対話集会においても、いろいろとご意見をいただいております。そういう思いについては私も認識しているところでありますので、今後の中でぜひ検討していきたいと思っております。

また、今回の洪水で江丹別地区が孤立したことにより、地域の皆さんは非常に危機感を持たれたのではないかと思います。これについても、土木工事等の伴う部分もありますが、私どもも問題、課題として受け取っておりますので、検討していかなければいけないと思っております。

引き続きまたいろいろとお世話になります。よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。